

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道158号 <small>おおの あぶらさかどうろ</small> 大野油坂道路（大野東・和泉区間） <small>おおの ひがし</small>	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局		
起終点 自：福井県大野市下唯野 至：福井県大野市貝皿		延長 14.0km		
事業概要 中部縦貫自動車道は、長野県松本市を起点とし、岐阜県高山市・福井県大野市を通り、福井県福井市に至る高規格幹線道路である。 大野油坂道路（大野東・和泉区間）は、中部縦貫自動車道の一部を構成し、高速交通ネットワークを形成するとともに、安定した交通の確保、文化・地域資源を活かした地域経済の活性化、医療活動への支援等を目的に計画された道路である。				
H20年度事業化	H-年度都市計画決定 (H-年度変更)	H24年度用地着手	H26年度工事着手	
全体事業費 約523億円		事業進捗率 2%		
供用済延長 -				
計画交通量 7,300台/日				
費用対効果分析結果	B / C <small>(事業全体)</small> 2.0	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 452/ 481億円 <small>(事業費：394/ 423億円)</small> <small>(維持管理費：58/ 58億円)</small>	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 965/965億円 <small>(走行時間短縮便益：784/784億円)</small> <small>(走行経費減少便益：163/163億円)</small> <small>(交通事故減少便益：18/18億円)</small>	基準年 平成26年
	<small>(残事業)</small> 2.1			
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.7～2.3(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.9～2.2(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.0～2.1(事業期間 ±20%)				
【残事業】交通量：B/C=1.8～2.5(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.0～2.3(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.1～2.2(事業期間 ±20%)				
事業の効果等 安定した交通路の確保 ・国道158号は線形の悪い箇所が多く、カーブ区間等における事故割合が5割強。加えて、過去10年で積雪・雨量規制による全面(片側)通行止が22回発生しており、安全で安定した交通路の確保が期待される。 医療活動の支援 ・大野市(旧和泉村)～第三次救急医療施設(福井県立病院)への所要時間が短縮。(69分 47分) また、線形の改善による走行性の向上で、患者の負担軽減が期待される。 地域の活性化 ・大野市を訪れる観光客の約4分の1は中部地方からの来訪者であり、中部地方とのアクセス強化で、観光客のさらなる増加が期待される。 ・中部縦貫自動車道の整備を見据え、大野市内の工業団地では、物流拠点としての企業立地が始めており、今後の更なる地域活性化が期待される。 災害時の代替路の確保 ・北陸自動車道、一般国道8号が豪雨等で通行止めの場合、名神高速道路～東海北陸自動車道～中部縦貫自動車道経由で災害時の代替路の確保が期待される。 日常生活圏の中心都市へのアクセス向上 ・大野市(旧和泉村役場)～大野市(所要時間:33分 26分) 主要観光地へのアクセス向上 ・アクセス性向上により観光客の増加が期待される。 大野まちなか観光:観光入込客数:57.4万人/年(H25) 九頭竜湖:観光入込客数:27.7万人/年(H25)				
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： ・H25年10月、中部縦貫自動車道建設促進福井県協議会(H1.8設立、福井県知事、福井市長、大野市長、勝山市長、永平寺町長)より早期全線開通の要望を受けている。				

・H25年8月、中部縦貫自動車道大野油坂道路整備促進連絡協議会（H6.6設立、大野市長、大野市議会議長、大野商工会議所会頭、大野市区町連合会会長等）より早期整備の要望を受けている。
福井県知事の意見：

一般国道158号大野油坂道路(大野東・和泉区間)の対応方針(原案)「事業継続」については異存ありません。

大野油坂道路については、未事業化区間(大野・大野東間)の早期事業化とともに、事業化区間(大野東・油坂出入口間)の速やかな用地買収・工事着手により、一日も早い全線開通を図っていただきたい。

永平寺大野道路については、平成28年度開通予定の永平寺東・上志比間の一日も早い全線開通が図られるよう十分な事業費を確保していただきたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道158号大野油坂道路(大野東・和泉区間)」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成24年度に隣接する「大野油坂道路(和泉・油坂区間)」が事業化。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成20年度に事業化、用地進捗率54%、事業進捗率2%(平成26年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業を推進し、早期の開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。